

衆庶ヲ教ヘ之ヲ勤メテ以テ基督ニ導ク時ハ、特ニ大ナル恩惠アリト知ル可シ、夫教會ヲ設立シ信者ヲ勸奨スルガ如キハ、大凡說教ニ由ル者ナリ、約翰傳第二十章ニ曰ク、三、此書ヲ錄セルハ、爾曹ヲシテ耶穌ノ神子基督ナルコトヲ信セシメ、之ヲ信シ其名ニ因テ生命ヲ得サセンガ爲ナリト、羅馬書第十章ニ曰ク、十三凡テ主ノ名ヲ願求ル者ハ救ハル可シ、十四然バ未ダ信セザル者ヲ何テ願求ルコトヲ得ンヤ、未ダ聞ザル者ヲ何テ信ズルコトヲ得ンヤ、未ダ宣ル者アラズ何テ聞コトヲ得ンヤ、十五若遣サレズバ何テ宣ルコトヲ得ンヤ、錄シテ平和ナル言ヲ宣ヘ、又善事ヲ宣ル者ノ其足ハ美シキ哉ト有ルガ如シ、十六然レ悉ク福音ヲ聽從シニ非ス、以賽亞嘗テ主ヨ我儕ガ宣ル所ヲ信セシ者ハ誰ゾヤト云ヘリ、十七然レハ信仰ハ聞ヨ

リ出、聞ク所ハ神ノ道ニ由ナリト、詩第十九篇ニ曰ク、七耶和華ノ律法ハ乃チ周全ニシテ靈ヲ蘇ラス可シ、耶和華ノ證詞ハ乃チ誠實ニシテ愚者ヲ智カラシム可シ、八耶和華ノ典型ハ乃チ正直ニシテ人心ヲ悦バシム可シ、耶和華ノ命令ハ乃チ純粹ニシテ人目ヲ明カコス可シト、約翰傳第十七章ニ曰ク、十七、爾ノ眞理ヲ以テ彼等ヲ潔メ給ヘ、爾ノ言ハ眞理ナリト、雅各書第一章ニ曰ク、廿二然バ諸ノ汚穢ト多クノ邪惡ヲ棄テ、柔和ヲ以テ爾曹其心ニ植タル所ノ靈魂ヲ救ヒ得ル道ヲ受ク可シト、詩第一百十九篇ニ曰ク、十八我目ヲ啓キ爾ノ法中ノ奇事ヲ觀ルヲ得セシメヨト、希伯來書第四章ニ曰ク、ニ蓋我儕モ彼等ガ如ク福音ヲ宣傳ラレタリ、惟彼等ガ聞ル所ノ言ハ其信仰劑ザリシガ故ニ聞ケル者ニ益ナカリキト、詩



第百十九篇ニ曰ク、九七我爾ノ法ヲ愛スルヲ若何ニ甚シキヤ、我終日之ヲ默念スト、又曰ク、百爾ノ言我勝ニ於テ若何ニ甘キカ、我口ニ在テ蜜ヨリモ甘シトスト、又曰ク十一我已ニ爾ノ論ヲ己ノ心ニ藏メテ爾曹ニ獲ルヲ免ルト、雅各書第一章ニ曰ク、廿二爾曹道ヲ行フ者トナル可シ、徒之ヲ聞ノミニシテ自己ヲ欺ク者ト爲ル勿レト、又曰ク、廿五然バ自由ナル全キ律法ヲ切々ニ觀テ離レザル者ハ是功ヲ行フ者ニシテ聞テ忘ル、者ニ非ズ、斯人其行フ所福アラント、

第四條 聖禮

第一款 聖禮ハ基督ノ設ケシ聖キ禮ナリ、此見ル可キ禮ニ於テ基督ト新約ノ恩惠ヲ顯シ、之ヲ定メテ信者ニ授ケラレタル者

ナリ、

此禮典ハ英語ニ之ヲサクラメントト云フ羅旬語ヨリ出ル者ナリ、太古羅馬ノ兵士タラン者、忠義ヲ誓フガ爲ニ立ル所ノ盟約ノ義ナリ、聖禮典モ亦之ニ同シク、信者タラン者ハ基督ニ忠勤ス可キノ誓約ニシテ、基督ハ我儕ノ主、即チ皇帝ナリト信認スルノ禮典ナリ、此禮典ハ則チ基督吾人ニ新約ヲ立給フノ休徴ニシテ、之ニ依テ基督信者ニ新約ノ恩惠ヲ施シ給フナリ、基督ハ則チ新約ノ本主ニシテ其首ナリ、故ニ基督ヲ外ニシテハ此禮典ヲ立ルノ權ナシ、獨基督ハ新約アルヲ以テ此禮典ヲ制メ給フ者トス、抑々此禮典ハ新約ノ休徴ナルヲ以テ人目ニ見ル可キ者ナリト雖、而モ中心ニ信仰アルニ非ザレバ無益ニ屬ス可シ、若中心信仰ア



ル者ハ此禮典ニ由テ基督ト新約ノ恩惠ヲ受ク可キハ次ノ第二  
 款ニ之ヲ論ズ可シト雖也、假令中心忠義ナリト誓約ヲ立ズ、禮典  
 テ行ハザル者ハ、兵士ヲラント欲スルモ真正ノ兵士タルヲ得ズ、  
 信者モ亦是ノ如シ、中心信仰アリ愛心アリト雖也、此禮典ヲ行ハ  
 ザル者ハ諸人ニ對シテ公然信者ト稱スルヲ得ズ、又既ニ此禮  
 典ヲ行フ者ハ諸人ニ對シテ信仰ト愛トヲ顯ハシ、又之ニ依テ基  
 督ノ新約ヲ確定シ給フ者ナリ、且基督ヨリ特殊ノ恩寵ヲ受テ信  
 仰ト愛トヲ厚フシ、律法ヲ守ルガ爲ニ能力ヲ受テ特ニ基督ト交  
 親アル可キ者ナリ、然リト雖也此禮典ハ拯救ト恩惠トヲ受ルガ  
 爲ニ、必用缺ク可カラザル者ト謂ヒ難シ、何トナレバ信仰シテ悔  
 改ムル者ハ必ス拯救アル可ケレバナリ、若信仰ト悔改アレバ假

令バテスマ洗禮セイヤ聖餐セイザンナキモ拯救アル可シト雖也、此等ノ聖禮典ハ基督ノ  
 制定給フ所ナルヲ以テ、信者ハ必ス之ヲ守ル可キ者ニシテ、即チ  
 拯救ノ定ノ徵候ナリ、且之ト共ニ聖靈ノ格別ナル恩惠アル可キ  
 ナリ、  
 第二款 拯救ヲ得シガ爲ニ聖禮ト之ヲ施ス者ノ徳ニハ因ラズ、  
 只基督ノ恩惠ト信シテ聖禮ニ與ル者ノ心ニ動ク基督ノ靈ニ  
 因ルナリ、  
 是ニ由テ之ヲ觀レバ禮典ハ管ニ信者ノ休徵ナルノミナラズ、又  
 是ニ由テ基督ト親和一致シテ拯救ヲ受ル者ナリ、然リト雖也信  
 者ハ如何ニシテ此拯救ト恩惠トヲ受ク可キ哉ト問バ固ヨリ、禮  
 典其事ニ特別ノ徳アルニ非ズ、故ニ禮典ヲ受レバ、信仰ナクモ恩



惠ヲ受ルトスル者ハ大ナル過誤ナリ、天主教徒ノ説ニ由レバ、不信者ト雖モ禮典ヲ受レバ、則チ其人ニ大益アリト爲セモ、決シテ然ルニ非ズ、道理ヲ知ラズシテ徒ニ禮典ヲ受ルモ何ノ益カアラシ、若シ不信仰ニシテ之ヲ受レバ、則チ却テ大害アル可キナリ、又此禮典ハ之ヲ施ス者ノ徳ニ由テ益アルニ非ズ、之ヲ施ス者ハ則チ神ノ道具タルニ過ヤズ、固ヨリ恩惠ヲ施ス者ニ非ズ、又神恩ヲ妨害シ得ル者ニ非ズ、只基督ノ恩惠ニ由テ利益アルナリ、是故ニ此禮典ヲ受ル者ハ必ず信仰ナカハル可カラズ、若シ信仰アル者ハ則チ聖靈ノ功驗ニ由テ心裏ニ基督ノ恩惠ヲ受ルアルナリ、

第三款 新約ノ禮典ハ洗禮ト主ノ晩餐ナリ、

天主教ニ於テハ新約ノ禮典七アリ、然レモ既ニ第一款ニ説ケル

ガ如ク、聖禮典ハ唯ニ過キズ、即チ洗禮、及ビ聖餐是ナリ、此二者ハ則チ基督ノ制定給フ所ノ聖禮典ナリ、故ニ唯此二者ニ由テ基督ヨリ恩惠ト拯救トヲ受ル者トス、其他ノ五禮ノ如キハ則チ聖禮典ト稱ス可キニ非ズ、其中ニ就テ婚禮ノ如キハ最も大切ノ禮式ナリト雖モ、基督ノ創テ立給フ所ニ非ズ、蓋創世ヨリ神ノ立給フ所ナルガ故ニ、之ニ依テ基督ヨリ新約ノ恩惠ト、拯救トヲ受ク可キノ理ナシ、尙其他ノ四禮ニ至テハ是ノ如ク大切ナル禮式ニ非ズ、或ハ却テ甚ダシキ謬妄ニ出ル者アリ、基督降世ノ以前、猶太教ニ於テ既ニ二禮ノ制定アリ、是ヲ舊約ノ二禮ト曰フ、其禮ニ由テモ亦恩惠ト拯救ヲ得タルアルト雖モ、新約アルニ迄テハ既ニ廢止ニ屬シタル者ナリ、基督洗禮ト聖餐トノ二禮ヲ立給ヘル



ハ更ニ疑フ可カラザルノ事實ナリ、亦之ニ依テ基督ノ恩惠アル  
 モ亦更ニ疑フ可キニ非ズ、故ニ之ヲ舍テ他ニ是ノ如ク重大ナル  
 禮典アル可キニ非ザル也、馬太傳第二十八章ニ曰ク、十是故ニ爾  
 曹往テ萬國ノ民ニ洗禮ヲ施シ、之ヲ父ト子ト聖靈ノ名ニ入テ弟  
 子トセヨト、路加傳第二十二章ニ曰ク、十九又麵包ヲ取り謝シテ擘  
 キ、彼等ニ予ヘテ曰ケルハ、此ハ爾曹ニ予フル我身體ナリ、我ヲ記  
 ヘン爲ニ此ヲ行ヘ、二十又食シテ後杯ヲ取り曰ケルハ、此杯ハ爾曹  
 ノ爲ニ流ス我血ニシテ立ル所ノ新約ナリト、使徒行傳第二章ニ  
 曰ク、三八彼得彼等ニ曰クルハ、爾曹各自悔改メテ罪ノ赦ヲ得ンガ  
 爲ニ、耶穌基督ノ名ニ託テ洗禮ヲ受ヨ、然ラバ爾曹モ聖靈ノ賜ヲ  
 受ベシト、加拉太書第三章ニ曰ク、廿六爾曹ハ皆基督耶穌ヲ信ズル

ニ由テ神ノ子トナレリ、廿七蓋凡ソ洗禮ヲ受テ基督ニ入ル爾曹ハ  
 基督ヲ衣タル者ナレバナリト、使徒行傳第八章ニ曰ク、十三西門モ  
 亦信シテ洗禮ヲ受ケ、常ニ腓力ト偕ニ在テ彼ガ行フ所ノ奇ナル  
 蹟ト休徴トヲ見テ駭ケリト、又曰ク、二十彼得彼ニ曰ケルハ、爾ノ金  
 ハ爾ト偕ニ亡ビヨ、爾ハ神ノ賜ヲ金ニテ得ント意ヘリ、廿一爾此事  
 ニ於テ分ナク又與ナシ、蓋爾ノ心、神ノ前ニ正シカラズ、廿二故ニ爾  
 此惡ヲ悔改メテ神ニ祈レ、爾ノ心ノ念或ハ赦サレン、廿三我爾ガ贖  
 ノ苦ニ居リ、不義ノ繫ニ在ルヲ見レバナリト、馬可傳第十六章ニ  
 曰ク、十六信シテ洗禮ヲ受ル者ハ救ハレ、信セザル者ハ罪ニ定メラ  
 ル、也ト、  
 第四款 洗禮ハ則チ水ヲ以テ父ト子ト聖靈ノ名ニ入シテ洗フ



ナリ、蓋我儕基督ニ接キ恩惠ノ誓約ノ益ニ與リ、主ニ屬スル者トナル約束ヲ示シ且定ムル禮ナリ、

第一項 是即チ洗禮ノ意義ヲ解説スル者ナリ、分テ四段ト爲ス、

第一 洗禮ハ水ヲ以テ洗フノ禮ナリ、昔猶太教ニ於テ種々ノ物

品ヲ洗フノ禮アリ、皆洗禮ト稱ヘタリ、例ヘバ異邦人歸化シテ猶

太人ト爲ル時ハ、男子ハ則チ割禮ヲ受ケ、婦女ハ則チ洗禮ヲ受

タリ、又猶太人自身ニ洗禮ヲ施スノ例式アリ、又寢床食案其他百

般ノ器具ニ洗禮ヲ施スヲアリタリ、蓋シ其意味ハ常ニ皆相同シ

ク共ニ物ヲ滌テ清淨ナラシムルノ義ナリ、新約ノ洗禮モ亦水ヲ

以テ物ヲ洗ヒ清ムルガ如ク、人ヲ洗フテ以テ罪ノ汚ヲ淨ムルト

爲スノ意ニ出ル者ナリ、舊約ニ於テハ或ハ水ヲ以テシ、或ハ血ヲ

以テ洗禮ヲ施シタリト雖也、基督教ノ洗禮ハ水ヲ以テ之ヲ施スナリ、

第二 洗禮ハ父ト子ト聖靈ノ名ニ入テ之ヲ施スナリ、父ノ名ニ

入ル、トハ、眞ノ耶和華ナル神ハ我父ニシテ、獨神ナルヲ顯ハ

スヲ謂フナリ、子トハ、神ノ愛子、主耶穌基督ハ吾人ノ救主ナリト

認ハスナリ、聖靈トハ吾人ヲ教ヘ聖メ給フ所ノ神ナリト信ズル

ナリ、而シテ父ト子ト、聖靈ノ名ニ入ル、ト云フ者ハ、凡ソ洗禮ヲ

受ルトハ聖書ニ録サレタル神ノ交親ニ入ル、ノ謂ナリ、

第三 洗禮ハ吾人主ニ屬スル者トナルヲ顯ハスノ禮ナリ、此禮

ニ於テ信徒タル者ハ諸人ノ前ニ自己ノ信仰ト忠義トヲ顯ハシ、

且神ニ對シテ約束ヲ立テ、自己ノ罪ヲ悔改メ、世間ノ諸惡ヲ棄テ



神ノ誠命ヲ受ク、之ヲ守リテ死ニ至ルマデ忠義ニ神ニ事フルノ誓約ナリ、

第四 此禮ニ由テ基督ヨリモ亦約束アリ、凡ソ基督ニ在ル所ノ恩惠ハ確乎ナル者タルノ休徵ナリ、故ニ其拯救ト永生トヲ惠賜フヲ信シテ疑フ可カラズ、洗禮ハ即チ其確乎ナル休徵ナリ、其然リ然リト雖也、既ニ第二款ニ論シタルガ如ク、只信仰アラバ則チ此利益アラン、信仰アリテ而後ニ洗禮ヲ受ケ、神ノ教會ニ入ル者ハ則チ其恩惠ヲ受ク可キナリ、只洗禮ノミニ由テ此恩惠アリト謂フ可カラズ、信仰アリテ而後ニ洗禮ヲ受レバ、則チ其恩惠アル可キノミ、

第二項 前項ニ論ズル所ノ如ク、洗禮ノ意義ヲ理解スル者ハ、洗

洗禮ノホトコシカ施法ニ就テハ之カ詳論ヲ要セズ、夫洗禮ハ水ヲ以テ信者ヲ洗フノ禮ニシテ其心ヲ淨ムルノ休徵ナリ、故ニ只其休徵アラバ則チ以テ足レリトス、古來其時ニ依リ其處ニ從テ、全身ヲ水ニ浸シテ、以テ洗禮ヲ施シタルコトアルヤ疑フ可カラズ、是固ヨリ能ク洗滌アラヒノ意味ヲ顯ス方法ナリ、又時ト處ニ因テ、洗禮ヲ受ル者ハ足テ水ニ浸シテ頭ニ水ヲ注タルコトアリ、是尤モ古風ノ洗禮ト見ヘタリ、又時ト處ニ因テハ頭ニ僅ノ水ヲ滴ラスノミナリシコトアリ、舊約ニ於テハ種々ノ洗禮アリシニ由リ、何ノ方法ヲ善トスル乎、聖書中ニ其明證ヲ見ズト雖也、新約以後ノ古書ニ十二使徒ノ教義ト題スル者アリ、其書中ニ言ヘルコトアリ、曰ク可成ハ流水ニ入テ洗禮ヲ施スヲ善トス、若流水ニ浸スコト能ハサレバ則チ鹽水ニ



入ル可ク、又若是モ不便ナラハ則チ水ヲ注グモ可ナリト、是ニ由  
 テ之ヲ觀レバ當時ニ在テモ洗禮ノ方法ヲ是非セザリシ者ト見  
 ハタリ、凡ソ中心ニ信仰アリ、且洗禮ノ主意ヲ解シテ之ヲ行フ者  
 ハ、水ヲ以テ心ヲ淨ムルノ休徴ヲ爲シテ以テ十分ト爲ス可シ、他  
 ニ其方法ニ就テハ重要ノ事ナシトス、故ニ唯一法ヲ以テ洗禮ノ  
 本法ト爲スガ如キハ、僅ニ外貌ノ禮式ヲ鄭重ニスルニ過テ大切  
 ナル中心ヲ忘ル、ノ失ト謂ザル可カラズ、  
 第三款 未ダ教會ニ入ザル者ニ洗禮ヲ施ス可カラズ、只基督ヲ  
 信シテ之ニ服フコトヲ明スノ後ニスベシ、但教會ニ入タル者ノ  
 小兒ニハ洗禮ヲ施ス可キナリ、  
 第一 大人ハ洗禮ヲ受クル前、既ニ基督ヲ信セザル可カラズ、是

固ヨリ聖書ニ記ス所ノ如ク信仰セザル可カラザルヲ謂ナリ、例  
 ヘハ基督モ又聖人ナリトシ、或ハ佛陀ノ如キ者ナリト信ズルガ  
 如キ者ハ、固ヨリ以テ信者ト爲ス可カラズ、凡ソ洗禮ヲ受ル者ハ  
 必ズ基督教ノ大意ヲ知ラザル可カラズ、而シテ其之ヲ知ルノ度  
 ハ幾何ニシテ可ナラン歟、此問題ニ就テハ議論區々ナリト雖モ、  
 信者ハ固ヨリ役者ノ如ク細ク神學ヲ知ラザルモ可ナリ、只基督  
 ヲ信仰スレバ則チ以テ足レリトス、但信者ハ必ズ眞神ノ教ト人  
 罪ノ教ト拯救ノ教トヲ知ラザル可カラズ、過早ク洗禮ヲ施スハ  
 大ナル失錯ナリ、又人ノ智力ハ固ヨリ相同シカラザルヲ以テ必  
 ス定期ヲ俟ベシトスルモ亦不可ナリ、偶像教ヨリ出タル者ハ、眞  
 神ト人罪ト拯救トニ就テ誤謬多キヲ以テ、必ズ先其誤謬ヲ排除



ヒ能ク神ノ眞理ヲ了解スルヲ俟ザル可カラズ、僅ニ其端緒ヲ知  
 レバ則チ信仰ヲ施シテ可ナリト云ヒ難シ、凡ソ洗禮ヲ受ル者ハ  
 必ズ眞ノ信仰ト忠義ナカル可カラズ、夫信仰ト忠義トハ洗禮ニ  
 由テ出ル者ニ非ズ、洗禮ハ則チ只其休徴ナリ、若信仰ナク忠義ナ  
 クシテ洗禮ヲ受ル者ハ、詐偽ナルガ故ニ更ニ益ナシ、即チ信仰ノ  
 結果ナキ者ナルガ故ニ、洗禮ヲ施ス可キ者ニ非ズ、然リト雖モ人  
 心ハ見ルコト能ハザル者ナレバ、必ズシモ其人ニ確乎タル信仰ア  
 ルヲ保ス可カラズ、或ハ錯誤ナキコト能ハザル者ナリ、  
 第二 信者ノ子女ハ幼兒ト雖モ亦洗禮ヲ受ザル可カラズ、古昔  
 猶太教會ニ於テハ小兒モ亦割禮ノ休徴ヲ受テ其恩惠ニ與リタ  
 リ、基督教會ニ至リテ信者ノ神恩ハ猶太教徒ノ神恩ヨリモ減ズ

可キノ理由ナシ、猶太人ハ皆其子女ト偕ニ神恩ヲ受クル者ト思  
 惟シタリ、然ルニ基督教ニ於テハ如何シテ之ヲ受ザルニ至リシ  
 乎、必ズ明カニ其命令ナカル可カラズ、之ニ反シテ新約ヲ讀メハ  
 幼兒モ亦洗禮ヲ受ケタリト見ヘタリ、何トナレバ新約全書中ニ  
 大人一家族ヲ擧テ偕ニ洗禮ヲ受タリト録セル者、前後三回ニ至  
 レリ、其家族中必ズ小兒アリト斷言シ難シト雖モ、必ズ小兒ナシ  
 トモ明言スルコト能ハズ、特ニ保羅言ヘルコトアリ、信者ノ子女ハ聖  
 キナリト、然レハ則チ聖書中ニハ子女ニ洗禮ヲ施ス可シトスル  
 ノ明カナル命令ナシト雖モ、現ニ之ヲ施シタルノ情况アルヲ以  
 テ證據十分ナリトス、又教會歴史ヲ按ズルニ最初ヨリ洗禮ヲ施  
 シタルコト疑ナシ、然レバ則チ信者タル父母ハ自己ノ信仰ニ由テ



子女ノ洗禮ヲ受ル者ナリ、神ハ小兒ノ洗禮ニ由テ之ニ恩惠ヲ施シ、拯救ヲ施スト云給ハズト雖也、之ニ聖靈ノ恩惠ヲ施シ給フヲ信ズルナリ、父母既ニ子女ノ爲ニ誓約ヲ立ツレバ、則チ自己ノ言行ヲ以テ之ニ教ヘ、基督ニ導クノ勢力アルヤ固ヨリナリ、若能ク此誓約ヲ守レバ子女ハ則チ洗禮ニ由テ神ノ教會ノ恩惠ヲ受ル者ナリ、父母若シ子女ニ代テ其義務ヲ勸ムレバ神恩ニ由テ其子女拯救ヲ受ル者トシ、父母之ヲ信仰スレバ則チ可ナリ、又子女ハ成長ノ後父母ノ立タル忠義ノ誓約ヲ自ラ能ク守リテ眞ノ拯救ヲ受ク可シ、只親子共ニ此誓約ヲ守ラザレバ拯救ヲ受ルコト無キハ固ヨリナリ、凡ソ洗禮ヲ受テ教會ニ入タル小兒ハ教會ノ保護ト、教論ト交親トヲ受ベキ者ナリ、己ニ洗禮ヲ施シテ後ニハ教

會モ致ヘズシテ之ヲ棄ルノ理ナシトス、使徒行傳第十章ニ曰ク、四七此時彼得答ヘタルハ、我儕ノ如ク既ニ聖靈ヲ受タル此人々ニ孰カ水ヲ禁シテ洗禮ヲ受ザラシムル者アラン乎ト、加拉太書第三章ニ曰ク、廿七蓋凡ソ洗禮ヲ受テ基督ニ入ル爾曹ハ基督ヲ衣タル者ナレバナリト、哥林多前書第十二章ニ曰ク、十三或ハ猶太人或ハ希臘人、或ハ奴隸、或ハ自主ニ拘ラズ、我儕皆一ノ靈ニ在テ洗禮ヲ受ケ一ノ體トナリ、又皆一ノ靈ヲ飲メリト、使徒行傳第二章ニ曰ク、四其時此言ヲ聞納シ者ハ洗禮ヲ受タリ、是日弟子ニ加ハレル者凡ソ三千人ト、又其第八章ニ曰ク、三六斯テ二人ノ者路ヲ行キ水アル所ニ至リケレバ、寺人曰ケルハ水ヲ見ヨ、我洗禮ヲ受ントス、何ノ礙カ有ルヤ、三七腓力曰ケルハ爾若全キ心ヲ以テ信セバ可ナラ



ン、彼答テ曰ケルハ、我耶穌基督ハ神ノ子ナリト信ズト、又其第十  
 六章ニ曰ク、十五彼婦其家族ト偕ニ洗禮ヲ受ケ求テ曰ケルハ、爾曹  
 モシ主ヲ信ズル者ト我ヲ爲バ我家ニ來リ留マレト、強テ我儕ヲ  
 入シメタリト、又曰ク、三三此夜ノ即時彼二人ヲ誘ヒ、其技傷ヲ濯ヒ  
 テ直ニ其家族ト偕ニ皆洗禮ヲ受クト、哥林多前書第一章ニ曰ク、  
 十六我又士提反ノ家族ニ洗禮ヲ施コセリ、此外ニハ我人ニ洗禮ヲ  
 施シ、一有ヤ否ヲ知ラズト、又其第七章ニ曰ク、十四蓋不信ナル夫  
 ハ妻ニ由テ潔クナリ、不信ナル婦ハ夫ニ由テ潔クナレハナリ、然  
 ラズハ爾曹ノ子女ハ潔カラズ、然レド今ハ潔キ者ナリト、  
 第五款 主ノ晚餐ハ、即チ基督ノ命ゼシコニ循ヒテ麵包ト葡萄  
 酒ヲ授ケ受クルヲ以テ其死セシコヲ顯ハスナリ、且信ヲ以テ

此禮ニ倍ル者ハ基督ノ血肉ヲ飲食スルニ非ズ、只信仰ニ由リ  
 其血肉ト凡テ其仁惠ニ與リテ靈ヲ養ヒ徳ヲ建ルニ及ブ者ナ  
 リ、

第一項 主ノ晚餐ハ基督ノ死給ヘル記念ノ表徴ナリ、是即チ聖  
 餐ノ本義ナリ、哥林多前書第十一章第二十六節ニ記ス所ニ依レ  
 バ、爾曹此麵包ヲ食シ此杯ヲ飲ム毎ニ、主ノ死ヲ表シテ其來ル時  
 マデニ及ブナリト、基督曰ハク、我ヲ記ヘン爲ニ之ヲ行セト(路加  
 傳第十九章、第二十二節)而シテ此聖餐ニ用フル所ノ物品ヲ觀レ  
 バ則チ能ク其意味ヲ解ス可シ、物品ハ則チ麵包ト葡萄酒ナリ、基  
 督ノ麵包ヲ擘キ給フハ即チ其肉身ヲ擘キ給フノ意味ナリ、然リ  
 而シテ役者ハ信者ノ前ニ麵包ヲ擘キ、十字架ニ釘ラレテ擘カレ



給へル基督ノ肉身ヲ記念ノ爲ニ行フ所ノ禮典ナリ、又葡萄酒ヲ注ハ基督ノ流シ給へル血ヲ表スノ意味ナリ、然リト雖モ、是皆ニ基督ヲ記念ノ爲ノミナラズ、信者ハ則チ其麵包ヲ食シ、又其葡萄酒ヲ飲ムナリ、然ルニ麵包ト葡萄酒トヲ指シテ是我肉我血ナリト曰へリ、然レバ則チ信者ハ基督ノ肉身ヲ食シ、其血ヲ飲ミテ基督ニ一致スルナリ、故ニ聖餐ハ基督ノ死ヲ記念スルノ表徴ニシテ、又之ニ一致スルノ休徴ナリ、此二徴ヲ觀察スレバ、凡ソ基督教徒タル者ハ基督ノ死ニ由テ恩惠アリ、生命アリ、又基督ニ一致スルコトアルヲ知ル可シ、蓋基督ノ血肉ハ我血肉トナリテ我靈魂ヲ養フ者ナリ、基督ノ德義ハ我德義ト爲ル者ト見ヘタリ、又麵包ト葡萄酒トハ基督ノ血肉ナリト云フト雖モ、素ヨリ其質變化シテ

全ク血肉トナルノ道理ナシ、麵包ハ固ヨリ麵包ニシテ、葡萄酒ハ固ヨリ葡萄酒ナリト雖モ、只信仰ニ由リ麵包ト葡萄酒トヲ以テ基督ノ血肉ヲ受ルノミ、  
 第二項 凡ソ主ノ晚餐ヲ守ル者ハ基督ノ恩惠ヲ受ル者ナリ、是前ニ論ズル所ノ如ク信者ト基督ト一致スルニ在ルナリ、蓋聖餐ハ肉體ノ禮典ニ非ズシテ、信仰ニ由リ實ニ基督ト一致シ、其死ノ恩惠トカ勢ト生命トヲ施シ給フノ聖禮典ナリ、吾人自身ニハ勢カナク智慧ナク德義ナク、而シテ唯基督ヨリ之ヲ受ル者ナリ、又基督ハ十字架ニ釘ラレタルヲ以テ之ヲ我贖主ト信認スルナリ、而シテ此禮典ヲ以テ常ニ之ヲ記念スレバ、則チ我靈魂ノ滋養ト爲ルヲ見ル可シ、而モ只之ヲ記憶スルノ恩惠ノミニ非ズ、殊ニ基



督ハ常ニ信者ト偕ニ在シテ、能ク之ヲ守ル者ニハ直接ニ其恩惠ヲ施シ給ヒ、信仰、仁愛、及ヒ正義潔白ノ結果アル可シ、是故ニ洗禮ハ教會ニ加入スルノ禮典ニシテ聖餐ハ信者ノ生命ヲ養成スルノ禮典ナリ、

第三項 信實ヲ以テ主ノ晚餐ニ倍ラン爲其麵包ト葡萄酒ハ主ノ

肉體ヲ表ス<sup>シ</sup>トテ知リ、主ヲ信シ、又悔改ムルトト、愛スルト、主ニ

服フ<sup>シ</sup>ト、是等ニ就テ自身ヲ反省ル可キナリ、然ラザレバ反テ自

カラ罰ヲ飲食スルナリ、

前項ニ述ルガ如ク、信仰ヲ以テ聖餐ヲ守ル者ハ則チ大益アリ、信仰ヲ以テ之ヲ守ル者ハ固ヨリ聖餐ノ真意ヲ知ラザル可カラズ、其物品ハ則チ基督ノ血肉タルテ知リ、又自己ト基督ノ關係ヲ知

ラザル可カラズ、若其真意ヲ知ラズシテ之ヲ守ル者ハ更ニ益ナク、又假令其意ヲ解スレモ基督ニ服ヒ之ヲ愛スルトナクシテ、之ヲ守ル者ハ大ナル罰アリ、何トナレハ是ノ如キ者ハ基督死スルノ意ヲ知ルモ己ガ罪ヲ悔改メズ、基督ニ服ハズ之ニ一致スルトナクシテ、徒ニ之ニ倍ル者ハ神ノ大恩ヲ棄ル者ナレバナリ、是故ニ信者ハ先自己ノ心ヲ反省テ、而後ニ之ヲ守ル可シ、若信仰アリ愛アル者ハ則チ益アリ、之ニ反スル者ハ則チ却テ罰ヲ受ク可キノ禮典ト知ル可シ、而シテ我心ヲ反省ル者ハ如何ニシテ可ナラシ手、眞ノ信者タルノ徴候ハ載セテ聖書中ニ在リ、我ニ悔改アリヤ、信仰アリヤ、愛アリヤ、忠義アリヤ、否ヤ皆聖書ニ照シテ之ヲ見ル可キノミ、路加傳第二十二章ニ曰ク、十九又麵包ヲ取り、謝シテ擘



キ彼輩ニ予テ曰ケルハ此ハ爾曹ニ予フル我身體ナリ、我ヲ記ヘ  
 ン爲ニ此ヲ行セ、二十又食シテ後、杯ヲ取リ曰ケルハ此杯ハ爾曹ノ  
 爲ニ流ス我血ニシテ、立ツル所ノ新約ナリト、哥林多前書第十一  
 章ニ曰ク、廿三我爾曹ニ傳ヘシ事ハ主ヨリ授ケテレタルナリ、即チ  
 主耶穌ノ賣ル、夜麵包ヲ取リ、廿四祝シテ之ヲ擘キ曰ケルハ、取テ  
 食セヨ、此ハ爾曹ノ爲ニ擘カル、我體ナリ、爾曹モ如此行ヒテ我  
 テ憶ヨ、廿五食シテ後又杯ヲ取リ前ノ如クシテ、曰ケルハ此杯ハ我  
 血ニシテ立ル所ノ新約ナリ、爾曹モ如此行ヒテ飲ゴトニ我ヲ憶  
 ヨ、廿五爾曹此麵包ヲ食シ此杯ヲ飲ムゴトニ主ノ死ヲ表シテ其來  
 ル時マデニ及ブナリ、廿七然レバ宜ニ合ズシテ、此麵包ヲ食シ、主ノ  
 杯ヲ飲ム者ハ主ノ體ト血ト干スナリ、廿八人自カラ省ミテ後其麵

包ヲ食シ、其杯ヲ飲ム可シ、廿九宜ニ合ズシテ食飲スル者ハ其食飲  
 ニ由テ自カラ罰ヲ招クナリ、蓋主ノ體ヲ辨ヘザルニ因ル、三十是故  
 ニ爾曹ノ中ニ弱キ者病ノ者又寢タル者多シト、

第五條 祈禱

第一款 祈禱ハ基督ノ名ニ由リ神ノ旨ニ合フヲ願ヒ、又己ノ  
 罪ヲ懺悔シ神ノ仁惠ヲ感謝スルナリ、

是即チ祈禱ノ意義ヲ解釋スル者ナリ、分テ三段ト爲ス、

第一 基督ノ名ニ依テ神ニ願フナリ、基督教ニ於テハ祈禱ヲ以  
 テ第一緊要ノ事ト爲ス、凡ソ神恩ヲ受ル者ハ果シテ何ニ由ル乎、  
 輒チ祈禱ニ由テ之ヲ受ルナリ、然リ而シテ基督ノ名ヲ以テ神前  
 ニ祈願スルハ即チ神ヲ信仰シ我父ナルヲ知り、基督ノ智慧ニ由



テ神ニ和睦シ、互ニ相妨グルコトナキヲ覺リ、喜ビテ神ニ祈禱スル  
 ナリ、茲ニ基督ノ名ニ由ルト云フ者ハ前ニ説明シタル信仰ノ  
 意味ヲ悉ク含ムナリ、信者ハ神ヲ畏レ敬フ可キハ勿論ナリト  
 雖、神ニ祈願スル者ハ眞ニ子女ノ父母ヲ愛慕スルガ如ク切  
 ニ懇求ス可キナリ、神ハ吾人ヲ離レズ常ニ在シ、我祈禱ヲ聽  
 テ之ニ應ヘ給フ者ト知ル可シ、又基督ニ由テ之ヲ請願ヘバ、神ハ  
 至愛至仁ノ心ヲ以テ慈善ノ恩賜アリト知ル可シ、基督ノ名ニ依  
 トハ徒ニ禱詞ノ終ニ其名ヲ稱フルノ謂ニ非ズ、祈禱中ニ其名ヲ  
 稱フルト稱ヘザルトニ拘ラズ、只管ニ基督ヲ信仰スルノ心ヲ以  
 テ祈ル可キテ謂フナリ、  
 第二 自己ノ罪ヲ懺悔シ、神ノ仁惠ヲ感謝シテ祈ルナリ、凡ソ基

督ノ名ニ依テ祈ル者ハ固ヨリ謙遜ノ心ナカル可カラズ、吾人ハ  
 一事一物ヲモ神ヨリ受ク可キ者ニ非ズ、但罪人ナルヲ以テ神罰  
 ヲ受ク可キ者ナリ、故ニ神前ニ我罪ヲ自白シテ祈ル可キナリ、是  
 亦啻ニ口ニ之ヲ顯言スノミヲ謂フニ非ズ、一々ビ其罪ヲ懺悔シ  
 テ再ビ之ヲ犯シ、或ハ口ニ之ヲ顯言シテ尙心ニ之ヲ思望ガ如キ  
 ハ眞ノ懺悔ニ非ズ、前ニ述タルガ如ク我罪ヲ悔改スルノ心ヲ以  
 テ祈ラザル可カラザルナリ、又神ノ仁惠ヲ感謝セザル可カラズ、  
 吾人自己ノ罪惡ヲ感覺スレバ固ヨリ善事ヲ受ク可キ者ニ非ズ、  
 若善事アル者ハ則チ皆神ノ仁惠ニ出ル者ナリ、善事トハ即チ我  
 生命ヲ養ヒ心志ヲ養フニ要用ナル者ヲ謂フナリ、若既ニ之ヲ受  
 ケ尙未ダ満足セザル者ハ眞ノ祈禱ヲ爲ス可ハザル者ナリ、



第三 神旨ニ合フヲ祈ラザル可カラズ、信者ハ則チ信仰アリ、  
 己ヲ棄テ神明ノ意旨ニ合フヲ願望ム者ナリ、例ヘバ我ニ疾病  
 アリ憂患アリ貧困アリ苦難アリ死傷アリ、若是神意ニ適フ者  
 タラバ則チ喜テ之ヲ受ケ可キナリ、昔基督ゲツセマチノ國ニ在  
 テ我父ヨ若聖旨ニ合ハ、此杯ヲ我ヨリ離チ給ヘ、然レド我心ノ  
 從ヲ成サントスルニ非ズ、聖旨ニ任セ給ヘト曰ヘリ、是即チ信者  
 ノ心ト爲ス可キ者ニシテ、己ノ志望ヨリモ神意ニ適フヲ切望  
 ス可キナリ、神慮ニ背ク者ハ即チ罪ナリ、罪ニ從ヘバ假令何等ノ  
 大幸アリト思惟スルモ、必ズ之ヲ望ム可カラズ、抑々神意ニ適フ  
 ハ果シテ何事ナルヤ、假令之ヲ知ラザルモ心ヲ盡シカヲ竭シテ  
 祈願スル者ハ、只神意ニ適ハ、則チ之ヲ求メ、合ハザレバ則チ之

ヲ求メズ、故ニ聖旨ニ合フヲ以テ祈禱ノ大事ト爲ス可シ、若神意  
 ニ適フト否トテ問ハズ、吾人ノ懇望ヲ以テ大事ト爲ス者ハ實ニ  
 祈禱ノ主眼ヲ毀ル者ナリ、以上三段ニ於テ説ク所ノ主意ニ從テ  
 祈ル者ハ、萬事ニ就テ祈ルヲ善トス、凡ソ萬事萬物ハ皆神ヨリ來  
 ル者ナリ、故ニ世間ノ萬事ニ就キ日常ノ要用ニ就キ自己ノ思望  
 ニ就キ總テ神ニ祈禱ス可キナリ、世人或ハ自然ノ道理ト云ヒ、或  
 ハ天命天理ノ説アリト雖モ、神ハ即チ上帝ナリ、天帝ナルガ故ニ  
 蓋亦皆神ノ管理シ給フ所ナラン、然レバ則チ天地萬物萬事皆神  
 ノ管理ヲ受ザルハナシ、故ニ凡ソ細小至微ノ事物ト雖モ神ノ管  
 轄ヲ免ル、一能ハズ、是ヲ以テ事大小トナク、祈禱スレバ必ズ神  
 應アル可シ、然リ而シテ神ハ何ヲ以テ祈禱ニ應ヘ給フ乎、吾人ノ



知ル所ニ非ズト雖也、神ハ吾人ニ命シテ祈ラザル可カラズト教ヘ給ヘルヲ以テ、吾人必ズ祈禱ス可キ事ニ就テハ敢テ疑フ所ナシトス。

以上説ク所ノ祈禱ノ意義ヲ考フルニ、不信者ハ斷シテ眞ノ祈禱ヲ爲スヲ能ハズ、信仰、悔改、及び神意ニ放任スヲハ則チ祈禱ノ必要ナリ、若此三者ヲ具フル者ハ則チ信者ナリ、然レバ則チ未ダ信仰セズ悔改メザル者ハ決シテ祈禱スルヲ能ハズ、然リト雖也、若神ヨリ聖靈ヲ受テ中心ニ信仰ト悔改トヲ始メタル者ハ、乃チ神ニ祈禱スルヲアル可シ、約翰傳第十六章ニ曰ク、廿三其日爾曹我ニ問フ所ナカル可シ、誠ニ實ニ爾曹ニ告ン、凡ソ我名ニ託テ父ニ求ムル所ノ者父、之ヲ爾曹ニ授ケ給フ可シ、廿四爾曹今マデ我名ニ託

テ求メタルヲナシ求メヨ然バ受ケン而シテ爾曹ノ喜滿ベシト路加傳第十八章ニ曰ク、十二人祈ラントシテ殿ニ登リシガ、其一人ハ法利塞ノ人一人ハ稅吏ナリキ、十二法利塞ノ人立テ自カラスク祈レリ、神ヨ我ハ他人ノ如ク強索不義姦淫セズ、亦此稅吏ノ如クニモ有ラザルヲ謝ス、十二我七日間ニ二次斷食シ、又凡テ獲ル所ノ物ノ十分一ヲ獻ゲタリ、十三稅吏ハ遠ニ立テ天ヲモ仰キ見ズ、其胸ヲ拊チテ、神ヨ罪人ナル我ヲ憐レ、ミ給ヘト云ヘリ、我爾曹ニ告ン、此人ハ彼人ヨリハ義トセラレテ家ニ歸リタリ、夫凡テ自己ヲ高ブル者ハ卑ラレ、自己ヲ卑下ス者ハ高ラル可シト、約翰第二書第一章ニ曰ク、九若己ノ罪ヲ認ハサバ、神ハ信實ナル公義者ナルカ故ニ、必ズ我儕ノ罪ヲ赦シ諸ノ不義ヨリ我儕ヲ潔ム可シト、馬



太傳第七章ニ曰ク、七求メヨ然ハ與ヘラレ、尋ヨ然ハ遇ヒ、門ヲ叩ケヨ然ハ開カル、一ヲ得ン、八蓋凡テ求ムル者ハ得、尋ヌル者ハ遇ヒ、門ヲ叩ク者ハ開カル可ケレバナリ、九爾曹ノ中誰カ其子麵包ヲ求メンニ石ヲ予ヘンヤ、十又魚ヲ求メンニ蛇ヲ予ヘンヤ、十一然ハ爾曹惡キ者ナガラ善賜ヲ其子ニ予フルヲ知ル、况テ天ニ在ス爾曹ノ父ハ求ムル者ニ善物ヲ予ヘザラン乎ト、腓立比書第四章ニ曰ク、六何事ヲモ思ヒ煩フ勿レ、唯毎事ニ祈禱ヲシ懇求ヲシ、且感謝シテ己ガ求ムル所ヲ神ニ告ヨト、雅各書第四章ニ曰ク、二爾曹貪レ能得ズ、殺スヲナシ嫉ムヲナスレ能得ルト能ハズ、爾曹争競ト<sup>アラソヒ</sup>戦闘セリ、爾曹ハ求メザルニ因テ得ザルナリ、三爾曹求メテ尙得ザルハ、爾曹慾ノ爲ニ費サントシテ妄ニ求ムルガ故ナリ

ト、羅馬書第八章ニ曰ク、廿六聖靈モ亦我儕ノ荏弱ヲ助ク、我儕ハ祈ル可キ所ヲ知ラザレニ、聖靈自カラ言ヒ難キノ慨歎ヲ以テ我儕ノ爲ニ祈リヌ、廿七人ノ心ヲ察給フ者ハ聖靈ノ意ヲモ知レリ、蓋神ノ心ニ遵ヒテ聖徒ノ爲ニ祈レバナリト、帖撒羅尼迦書第五章ニ曰ク、十七斷ズ祈ル可シ、十八凡テノ事感謝ス可シ、是耶蘇基督ニ由テ爾曹ニ求メ給フ神ノ旨ナリト、  
 第二款 祈禱ヲ教ヘン爲ニ聖書ハ皆益アル者ナリ、然ト基督其門徒ニ教ヘシ所ノ祈禱ハ主ノ祈禱ト稱ヘテ、殊ニ我儕ノ式ト爲ル者ナリ、  
 夫聖書ハ實ニ祈禱ノ書ナリ、若祈禱ナケレバ則チ神ニ交親ナシ、故ニ聖書ヲ信ズル者ハ必ズ常ニ祈禱セザル可カラズ、猶太ノ古



聖人ノ歴史ヲ見ルニ祈禱ノ事極メテ多ク、又聖書ヲ閱スレバ則チ吾人ノ祈禱ノ模範タル可ク、例式タル可キ者多ク、又祈禱ノ規則モ亦甚ダ多シトス、凡ソ祈禱ハ信仰ト愛ト義ノ爲ニ斯ノ如ク大切ナル者ナルヲ以テ、基督ハ特別ニ其門徒ニ教ヘ給ヘリ、其傳記ヲ見ルニ基督ハ常ニ祈禱シ給フヲ甚ダ多ク、又我祈禱ノ模範タル可キ者多シトス、就中所謂ル主ノ祈禱ハ特ニ式トス可キ者ナリ、故ニ之ヲ詳ク説ザルヲ得ズ、但之ヲ以テ祈禱式ト爲ス者ハ實ニ其詞ヲ用テ祈ル可キヲ謂フニ非ズ、又其語ヲ反覆シテ之ヲ稱フルモ更ニ益アルニ非ズ、唯信仰ト悟覺トヲ以テ之ヲ用フレバ、則チ眞ノ祈禱ト爲ルナリ、

第一項 主ノ祈禱ノ初句ニ天ニ在ス我儕ノ父ヨト云フハ、子タ

ル者ノ慈愛深キ父ニ近ヅクカ如ク、我儕モ尊敬ト信仰ヲ以テ神ニ近ヅクコトヲ教ヘ、又我儕他人ノ爲ニ祈リ、他人ト偕ニ祈ル可キコトヲ教フルナリ、

神ヲ顧テ我儕ノ父ト云フ者ハ、之ニ因テ神人ノ關係ヲ顯ハス者ナリ、父ト稱スル者ハ、神ハ是實ニ造物者タルノミナラズ、又仁惠ト恩愛ノ深キヲ顯ハス語ナリ、又吾人ハ當ニ神ヲ愛シ之ヲ敬ヒ之ヲ信ヲテ以テ祈禱スベキヲ見ル可シ、天ニ在スト云フ者ハ神ノ尊位ヲ示ス語ニシテ、即チ在天ノ上帝無限全善ノ神トシテ之ヲ拜シ、之ニ祈リ願フノ意ナリ、天ニ在スノ語ヲ以テ神ハ只天ニノミ在スト云フノ意ト爲ス可カラズ、何處ニ於テモ在サバル所ナキ者ナルガ故ニ、吾人ト偕ニ在スヤ知ル可シ、又我儕ノ父ト稱



フル者ハ吾一人ノ事ニ非ズ、亦他人ノ爲ニモ祈ル所アルヲ見ル可キナリ、

第二項 初ノ禱詞ニ神名ヲ聖ナラシメ給ヘト云フハ、我儕ト他人ニ神ノ己ヲ顯ハス者ヲ以テ神ノ榮光ヲ彰ハサントヲ願ヒ、又神自カラ其榮光ヲ顯ハサン爲ニ、萬物ヲ治メ給ハントヲ願フナリ、

第一ノ禱詞ニ於テ神ノ榮光ヲ顯彰サントスル者ハ、先其尤モ大要ナル者ヲ顯言スナリ、既ニ此問答ノ第一ノ答ニ於テ述ルガ如ク、人ノ重ニ目的トス可キトハ神ノ榮光ヲ顯彰ストトス、凡ソ神威榮光ヲ顯彰スハ人ノ尤モ貴ク正シク且善ナル目的ナリ、蓋全ク神ノ本質ヲ顯彰ス者ナレバナリ、然レバ則チ能ク神威榮光ヲ

顯彰ストヲ好ム者ニシテ、而後ニ能ク此祈禱ヲ爲ストヲ得ベシ、故ニ神名ヲ聖ナラシメ給ヘト云フ者ハ、心力ヲ盡シテ神威オシヤカヲ顯彰スヲ以テ、吾人ノ第一眼目ノ義務ト爲ナリ、凡ソ神ノ榮光ヲ顯彰サント欲スル者ハ如何セバ可ナラン乎、唯神意ニ適ヒ神命ヲ守ラントヲ務ムルニ在ルノミ、然リト雖モ是既ニ前ニ詳論シタルガ故ニ、茲ニ之ヲ再論スルヲ要セズ、但神ハ大能ヲ以テ萬物ヲ造リ之ヲ理メ給ヘバ、此一句ヲ以テ其榮光ヲ顯彰サントヲ望ムナリ、其榮光ヲ顯彰スハ實ニ天地間ノ萬物萬事ニ就テ、最貴ク且大切ナル事ト知ルベシ、然レバ則チ吾人生涯ノ萬事ハ神威榮光ヲ顯彰サンガ爲ニ、長久トコシナニ之ヲ保リ理メ給ハントヲ願ヒ奉ルノ意ナリ、



第三項 第二ノ祈禱ニ神國ヲ榮<sup>ミ</sup>ラセ給ヘト云フハ、魔王ノ國ノ滅サレント、恩愛ノ國ノ益々盛ナラント、又我儕ト他人ノ之ニ入テ離レザルコト、又榮光ノ國ノ速ニ到ラントヲ願フナリ、蓋シ神國トハ特別ノ意味アル語ナリ、夫神ハ上帝ナルヲ以テ固ヨリ天地萬物ヲ管理シ給フ者ナリ、故ニ天地萬物ハ必ズ皆神ノ命令ヲ奉ゼザル可カラズト雖也、又其中ニ自カラ神命ヲ奉ゼザル者アリ、即チ罪人ノ如キ魔王ノ如キハ皆神ヲ憎ミ嫌フ者ニシテ、自カラ神誠ヲ守ル者ニ非ズ、國ハ即チ教會ヲ指スナリ、凡ソ教會ニ入ル者ハ神ヲ愛シ自カラ神誠ヲ守ルコトヲ喜フ者ナリ、神國ヲ來ラセ給ヘト祈ルハ、世人皆基督ヲ信シ神ヲ愛シテ、神誠ヲ守ラセ給ハンコトヲ祈リ願フナリ、此第二ノ禱詞モ亦神威榮光ヲ顯

彰ス者ニシテ、吾人ノ心ニ速カニ神國ヲ來ラセ給ハンコトヲ祈リ願フナリ、故ニ先我力ヲ盡シテ神ニ事ヘ、又我私ヲ去リ我罪ヲ棄テ、全ク基督ニ從ヒ以テ之ヲ願フナリ、且我一人ノミナラズ他人ノ爲ニモ此大ナル恩惠ヲ祈リ、<sup>ヒン</sup> 魁<sup>ベン</sup>シテ他人ヲ神ノ道ニ導カザル可カラズ、乃チ我ハ我言行ニ於テ神威ヲ顯彰シ以テ衆人ヲ教ヘ、終ニ其榮光ノ國ヲ建給ヒ、諸人皆基督ノ前ニ<sup>ヒザ</sup> 跪ズクコトアルヲ信仰シ、大ニ之ヲ渴望シテ以テ神ニ祈リ願フナリ、  
 第四項 第三ノ禱詞ニ神意ノ天ニ行ハル、如ク、地ニモ行ハレシメ給ヘト云フハ、神其恩ニ由テ我儕ヲモ天ニ於ケル其使<sup>ツカヒ</sup> 輩ノ如ク神ノ旨ヲ知り之ニ從ヒ萬事ニ於テ服スルヤウニ爲サシメ給ハンコトヲ願フナリ、



是即チ神國ノ意味ニシテ前ノ句ニ連續者ナリ、吾人ハ神旨ニ合  
 フト否トテ知ルコトナシ、或ハ之ヲ知ルコトアルモ尙之ニ背クコト多  
 シ、而モ之ニ由テ吾人ハ却テ神意ニ適フコトヲ知リ、而シテ之ヲ全  
 ク守ルコトヲ得ンガ爲ニ神ニ祈ルナリ、又管ニ吾人ノミナラズ、凡  
 ソ世ニ在ル者ハ皆天ニ在ル神使ノ如ク、神命ヲ受テ能ク之ヲ守  
 ランコトヲ願フナリ、

第五項 第四ノ禱詞ニ我儕ノ日用ノ糧ヲ今日モ與ヘ給ヘト云  
 フハ、神ノ恩ニ由テ我儕現世ノ善物ヲ足レルホド受ケ、又是等  
 ノ物ト共ニ神ノ恩ヲ受ケンコトヲ願フナリ、

此禱詞ハ實ニ主耶穌基督ノ勸奨ニ符合スル者ナリ、山上ノ説教  
 中ニ爾曹先神國ト其正義トヲ求メヨ、然レバ是等ノ者、即チ世間

ノ必要ハ皆爾曹ニ加ヘラル可シト曰ヘリ、信者ハ實ニ神威ヲ顯  
 彰スヲ以テ第一ノ目的トシテ其次ニ自己ノ必要ノ爲ニモ亦神  
 ニ祈ル可キナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ世間何事モ皆神ノ恩惠ナ  
 リ、假令人間自己ノ作業アリト雖モ、因テ得ル所ノ結果ハ則チ實  
 ニ神ノ恩惠ナリ、然レバ則チ自己ノ作業ニ因ルモ亦神ニ感謝セ  
 ザル可カラズ、茲ニ日用ノ食ヲ求ムルハ財ヲ貪ルノ祈禱ニ非ズ、  
 全ク必用ノ物品ヲ求ムルナリ、財モ亦實ニ利益アリヤ否ヤ、是モ  
 亦實ニ恩惠ナリヤ否ヤ、吾人ノ知ル所ニ非ズト雖モ之ヲ惟願ハ  
 ズシテ、單ニ日用ノ糧ヲ求ムルガ爲ニ祈ルナリ、若日用ノ糧ノ爲  
 ニ神ニ祈リ神ヨリ之ヲ得レバ、則チ吾人ハ又顧慮スル所ナシ、蓋  
 我父ノ仁愛ト矜恤ヲ知ルニ因ルナリ、然ハ何ヲ食ミ何ヲ飲ミ何



チ衣ント思ヒ煩フヲ勿レ、

第六項 第五ノ禱詞ニ我儕ニ罪ヲ犯ス者ヲ我儕ガ免ス如ク、我儕ノ罪ヲモ免シ給ヘト云フハ、我儕カ凡ノ罪ヲ基督ノ勳功ニ由リテ神ノ免シ給ハンヲ願フナリ、是ハ我儕モ神ノ恩ヲ受テ、我儕ニ罪ヲ犯ス者ヲ心ヨリ免シ得ルニ由リ、憚カラズシテ之ヲ願フナリ、

凡ソ祈禱ニ方テハ自己ノ罪ノ赦免ヲ願フハ固ヨリナリ、假令信者ト雖モ、毎日罪ヲ犯スコアリ、故ニ神ニ祈ラザルテ得ザルナリ、蓋基督ノ贖罪アルヲ以テ罪ノ赦免ヲ受ルコアル者ニシテ、神ノ罰ヲ遁ル可キノ理由ナキナリ、基督既ニ其罰ヲ受給ヘルヲ以テ吾人之ヲ遁ル、ナリ、然レバ則チ罪ノ赦免トハ全ク基督ノ仁惠

ト矜恤ニ是由ルノミ、吾人自己ノ作業ニ由テ我罪ノ贖ヲ献ルコト能ハズ、唯神ノ矜恤ト仁愛ニ依リ頼ム可キノミ然レバ則チ吾人ハ何ノ心ヲ以テ己ノ罪ノ赦免ヲ神ニ祈ル可キ歟、吾人此大ナル恩惠ヲ懇求ムルニ方テハ、我ニ對シテ他ノ爲ス所ノ罪ヲモ亦赦サハル可カラズ、吾人自己ノ大惡ヲ感覺シテ尙且神ニ頼メリ、何ゾ他人ノ罪ヲ免サハルノ心アル可ケン乎、我若他ヲ憎テ其罪ヲ赦サスシテ、我罪ノ赦免ヲ願フモ何ツ神ノ矜恤ヲ受ルコアラシ、信仰アル者ハ固ヨリ神ヲ愛スル者ナリ、夫神ヲ愛スルトハ神ノ本質ヲ愛シ、又其中ニ含メル愛ト矜恤トヲ愛スルナリ、而シテ其愛ト矜恤トヲ好ム者ハ必ズ己ノ如ク隣ヲ愛ス可キナリ、然レバ則チ己ノ罪ノ赦免ヲ求ムル者ハ、亦同シク隣ノ罪ヲ赦ス可キナ



リ、此一句ハ則チ以テ祈禱ノ真理ヲ知ル可シ、即チ心ニ信實ナク  
 シテ、祈ル者ハ、無益ナリ、只愛ト義ト誠ヲ以テ神ニ祈レバ、則チ益  
 アリ、感應アル可キナリ、若妬心アリ憎心アリ惡心アル者ハ、假令  
 神ヲ拜スルノ禮式ヲ行ヒ祈禱ヲ爲スモ、皆罰ヲ招ク可キナリ、故  
 ニ我ニ對シテ害ヲ爲ス者ヲモ心ヨリ之ヲ免セバ、則チ既ニ神ヲ  
 愛シ神ニ從フ者タルヲ知リ、且自己ノ罪ノ赦免ヲ受ルニアリト  
 知ル可シ、

第七項 第六ノ禱詞ニ我儕ヲ試ミラル、トニ導キ給ハズ、却テ  
 惡ヨリ救ヒ給ヘト云フハ、神我儕ヲ護リテ罪ヲ犯ストニ導カ  
 レズ、或ハ惡キ事ニ導カレナバ我儕ヲ助テ救ヒ、給ハントテ願  
 フナリ、

所謂ル試ニ二義アリ、其一ハ則チ單ニ人ノ心ヲ吟味スルノミナ  
 リ、若此試惑ニ遇ヘバ則チ其人實ニ己ヲ愛スルヤ否ヤヲ顯ス可  
 シ、神時ニ此試惑ヲ以テ信者ヲ吟味シ給フニアリ、是時ニ方テハ  
 必ズ又神ノ扶助ト其能力ヲ要ス、約百ノ如キハ大ナル禍災ヲ受  
 ケ、是ニ於テ神ノ助ヲ得テ己ノ忠義ヲ顯シタリ、若神ノ助ナク反  
 テ心ニ不滿ヲ懷キ己ノ惡心ヲ顯スニアル可シ、又一ハ則チ惡ニ  
 誘フノ義ナリ、神ハ固ヨリ人ヲ惡事ニ誘フ者ニ非ズト雖、世間  
 亦是ノ如キ誘惑甚シトモ、且我欲心ヨリ惡事ニ導カル、者最  
 モ多シトス、是等ノ誘惑ヨリ救ヒ給ヘト禱ルハ甚ダ大切ノ祈禱  
 ナリ、加之ナラズ是等ノ誘惑ニ遇フ時ハ自己ノ惡念ト荏弱ヲ感  
 覺シテ、之ヨリ救ハレントテ神ニ祈リ願ハザル可カラズ、然レバ



則チ此一句ニ於テ信者ハ自己ノ孱弱ト惡心トヲ顯言シテ、我獨  
 リ惡ヲ遣ル、コナク、又我獨リ他人ヨリモ勝レタル者ニ非ズト  
 顯言シテ、只神ノ矜恤ト恩惠ト拯救トニ由テ德アリト知ル可シ  
 蓋吾人現世ニ在ル間ハ身ヲ終ルマデ毎日此祈禱ヲ必要トス、吾  
 人如何ニ德ニ進ム所尙未ダ完全ナルヲ能ハズ、必ズ常ニ神ノ能  
 カヲ缺ク可カラザルナリ、  
 第八項 主ノ祈禱ノ終ニ國モ能モ榮光モ世々ニ爾ノ所有ナレ  
 バナリ、アーメン、ト云フハ、是我儕祈ルニ只神ニノミ依頼ミ、又  
 祈ル時國ト能ト榮光ヲ神ニ歸シテ譽ム可キヲ教フルナリ、  
 アーメント云フハ、神我儕ヲ聞入給ハンコトヲ眞實ニ願フ證ナ  
 リ、

此結句ニ由テ神ヲ崇ムル必アルヲ顯スナリ、萬物ハ皆神ノ所爲  
 ナリ、神ノ爲ニ創造<sup>ツクラ</sup>レタル者ナリ、故ニ神ハ之ヲ天地萬物ニ比テ  
 可キニ非ズ、神ハ即チ上帝ニシテ天地萬物ノ主宰ナリ、能ハザル  
 所ナキ者ニシテ天地間ノ諸力ハ皆神ヨリ出ル者ナリ、且夫萬物  
 ハ創世ヨリ末世ニ至ルマデ神ノ榮光ヲ顯ハス者ナリ、吾人ノ祈  
 禱ニ於テモ亦特ニ神ヲ譽ム可キナリ、又「アーメント」ト云ハ是誠ナ  
 リト眞心ニ思テ、我祈願ヲ神ノ聞召シ給ハンコトヲ保證スル語ナ  
 リ、  
 右主ノ祈禱ノ初ニ於テ御名ヲ聖ナラシメ給ヘト云ヒ、又結句ニ  
 於テハ國モ能モ榮モ世々爾神ノ物ナレハナリト云フ、凡ソ祈禱  
 ニ於テ神又ハ神榮ヲ其始終ト爲ス可キヲ知ル可シ、神學モ亦之



ニ同シク其始終共ニ神榮ヲ顯ハス者ナリ、神學ノ始ニ於テハ人ノ重ニ目的トスベキ事ハ、神ノ榮光ヲ顯彰シ限ナク神ヲ樂シム事ナリト云ヒ、其終ニ於テハ國モ能モ榮光モ世々神ノ所屬ナリト云フ、故ニ神學ハ專ラ神榮ヲ顯彰シ神ノ本質ト其定ト其功業ト其理治トヲ顯ハス者ナリ、然リト雖モ人類一ダビ罪ニ陷テヨリ神ノ本質ヲ忘レ神ヲ離レタリ、而モ神ハ尙人ヲ矜恤ミ給ヒテ再ビ其本質ヲ現ハシ給フナリ、而シテ神學ハ即チ神ヲ敬フルノ學ニシテ神ノ本質ヲ示ス者ナルカ故ニ、第一大切ノ目的タル學問ナリ、神ノ本質ハ聖書ニ於テ之ヲ見ル可ク、殊ニ基督ニ由テ之ヲ知ル可キナリ、凡ソ罪人ハ神ノ本質ヲ見テ初テ己ノ罪ヲ感シ、初テ十分ナル贖罪ノ必要ナルヲ知ル可シ、乃チ茲ニ拯救ノ道ア

リ、耶穌基督ハ我罪ノ贖主ニシテ神人和睦ノ中保ナリ、故ニ吾人ハ基督ノ恩恵ト贖罪トニ由テ、義ト聖トヲ受テ神子トナリ、現世ニ廣大ノ恩寵ヲ蒙リ、末世ニ無究ノ生命ヲ稟ク、所以ニ基督ヲ愛シ基督ニ服ヒテ神ノ律法ヲ守ル可ク、又天啓ノ律法ヲ講究セサル可カラサルナリ、然リ而シテ人類ハ既ニ罪ニ陷タルヲ以テ特別ニ又義務アリ、即チ信仰ト悔改ト又基督ノ立給ヘル禮典ヲ守リテ、神ニ祈禱セザル可カラサルナリ、是等ノ義務ヲ盡シテ神ニ復歸リ、言行及ヒ思想ヲ以テ現世ニ於テモ來世ニ於テモ究ナク神榮ヲ顯彰スベキモノナリ、羅馬書第八章ニ曰ク、十五爾曹カ受シハ奴タル者ノ如ク復ビ懼ヲ懷ク靈ニ非ズ、アバ父ト呼ブ子タル者ノ靈ナリト、路加傳第十一章ニ曰ク、十三然レバ爾曹惡キ者ナカ



ラ善賜ヲ其兒曹ニ予フルヲ知ル、况テ天ニ在ニ爾曹ノ父ハ求ムル者ニ聖靈ヲ予ヘザラン乎ト、希伯來書第十章ニ曰ク、十九是故ニ兄弟ヨ我儕耶穌ノ血ニ由テ其我儕ノ爲ニ開キタル新シキ生路ヨリ慢ナル其肉體ヲ過リ、憚ラズシテ至聖所ニ入ルヲ得、廿二我儕誠實ノ心ト疑ヲ懷カザル信仰ヲ保チ、心ノ惡念ヲ灑ガレ清水ヲ以テ身ヲ洗ハレテ近ツク可シト、馬太傳第六章ニ曰ク、五爾祈ル時ニ偽善者ノ如クスル勿レ、彼等ハ人ニ見ラレシカ爲ニ會堂ヤ街衢ノ隅ニ立テ祈ルヲ好ム、我誠ニ爾曹ニ告ン、彼等ハ既ニ其報賞ヲ得タリ、六爾祈ル時ハ嚴密ナル室ニ入り戸ヲ閉テ隱微ナルニ在ス爾ノ父ニ祈レ、然ラバ隱タルニ鑿給フ爾ノ父ハ明顯ニ報ヒ給フ可シ、七爾曹祈ルキハ異邦人ノ如ク重複語ヲ言フ勿

レ、彼等ハ言多キヲ以テ聽レント意ヘリ、八是故ニ彼等ニ效フテ勿レ、爾曹ノ父ハ求ザル先ニ其需用物ヲ知り給ヘバナリト、猶太書ニ曰ク、<sup>二四</sup>我儕ノ救主ナル獨一ノ神即チ爾曹ヲ蹟カセシト保リ、爾曹ヲシテ汚ナク歡ビテ、其榮光ノ前ニ立コトヲ得シムル者ハ、世ノ始ノ前ヨリ今マタ後モ、世々永遠我儕ノ主耶穌督基ニ由テ榮ト威光ト大能ト權ヲ有チ給フ也、<sup>二五</sup>アトメント、馬太傳第二十章ニ曰ク、<sup>二六</sup>二次往テ復祈リ曰ケルハ、吾父ヨ若我ニ此杯ヲ飲サテ離ツテ能ハズバ聖旨ニ任セ給ヘト、又其第六章ニ曰ク、廿五是故ニ我爾曹ニ告ン、生命ノ爲ニ何ヲ食ヒ何ヲ飲ミ、又身體ノ爲ニ何ヲ衣ント思煩フテ勿レ、生命ハ糧ヨリ優リ身體ハ衣ヨリモ優レル者ナラズ乎ト、又曰ク、廿八又何故ニ衣ノヲ思ヒ煩フヤ、野ノ



百合花ハ如何ニシテ長カヲ思ヘ、勞ズ紡カザル也、廿九我爾曹ニ云  
 ン、蘇羅門ノ榮華ノ極ノ時ダニモ其裝コノ花ノ一ニ及ザリキ、三十  
 神ハ今日野ニ在テ明日墟ニ投入ラル、草ヲモ如此裝ハセ給ヘ  
 バ、况テ爾曹ヲヤ、嗚呼信仰薄キ者ヨト、又曰ク、三爾曹先神ノ國ト  
 其義シキトテ求ヨ、然六此等ノ者ハ皆爾曹ニ加ヘラル可シト、又  
 其第十八章第二十一節以下第三十節マデテ參考ス可シ、哥林多  
 前書第十章ニ曰ク、十三爾曹カ遇シ試惑ハ人ノ常ナラザルハナシ、  
 神ハ信ナル者ナリ、爾曹ヲ耐忍フヲ能ハザル試惑ニ遇セシ、爾曹  
 ガ其試惑ヲ耐忍ブヲ得シ爲ニ、其ニ添テ逃ルベキ途ヲ備給フ  
 ベシト、馬太傳第二十六章ニ曰ク、四一惑ニ入ヌヨウ目ヲ醒シ且祈  
 レ、其靈ニハ願ナレト肉體弱キナリト、雅各書第一章ニ曰ク、十三誘

ル、者ハ神我ヲ惡ニ誘フト言フ勿レ、神ハ惡ニ誘ハレズ、亦人ヲ  
 モ惡ニ誘ヒ給ハズ、十四人惡ニ誘ハル、ハ己ノ慾ニ引カレテ誘ナ  
 ハル、也ト、羅馬書第十一章ニ曰ク、三三嗚呼神ノ智ト識ノ富ハ深  
 イ哉、其法度ハ測リ難ク、其踪跡ハ索難シ、三四就カ主ノ心ヲ知シ、就  
 カ彼ト共ニ議ルヲ爲ンヤ、三五就カ先彼ニ施テ其報ヲ受ンヤ、三六  
 蓋萬物ハ彼ヨリ出彼ニ倚リ彼ニ歸レバナリ、願クハ世々榮神ニ  
 在レ、アーメント、默示錄第十四章ニ曰ク、六我マター一人ノ天使ノ  
 穹蒼ノ中央ヲ飛ブヲ見タリ、彼地ニ住ム者、即チ諸國諸族諸音諸  
 民ニ宣傳ヘル爲ニ永遠アル所ノ福音ヲ携ヘ、七大ナル聲ニテ謂  
 ケルハ神ヲ畏レ榮ヲ之ニ歸セヨ、蓋神ノ審判シ給フトキ既ニ至  
 レバナリ、天地海及ビ氷ノ源ヲ造リ給ヒシ者ヲ拜セヨト、又其第



十九章ニ曰ク、五聲寶座ヨリ出テ給フ、神ノ僕ヨ神ヲ畏ル、者ヨ、  
大ト小トノ別ナク皆我儕ノ神ヲ讚美ス可シ、六我衆人ノ聲ノ如  
ク多ノ水ノ音ノ如ク、大ナル雷ノ聲ノ如キ聲ヲ聞ケリ、曰ク「ハレ  
ルヤ」夫主タル全能ノ神ハ王ナリト、

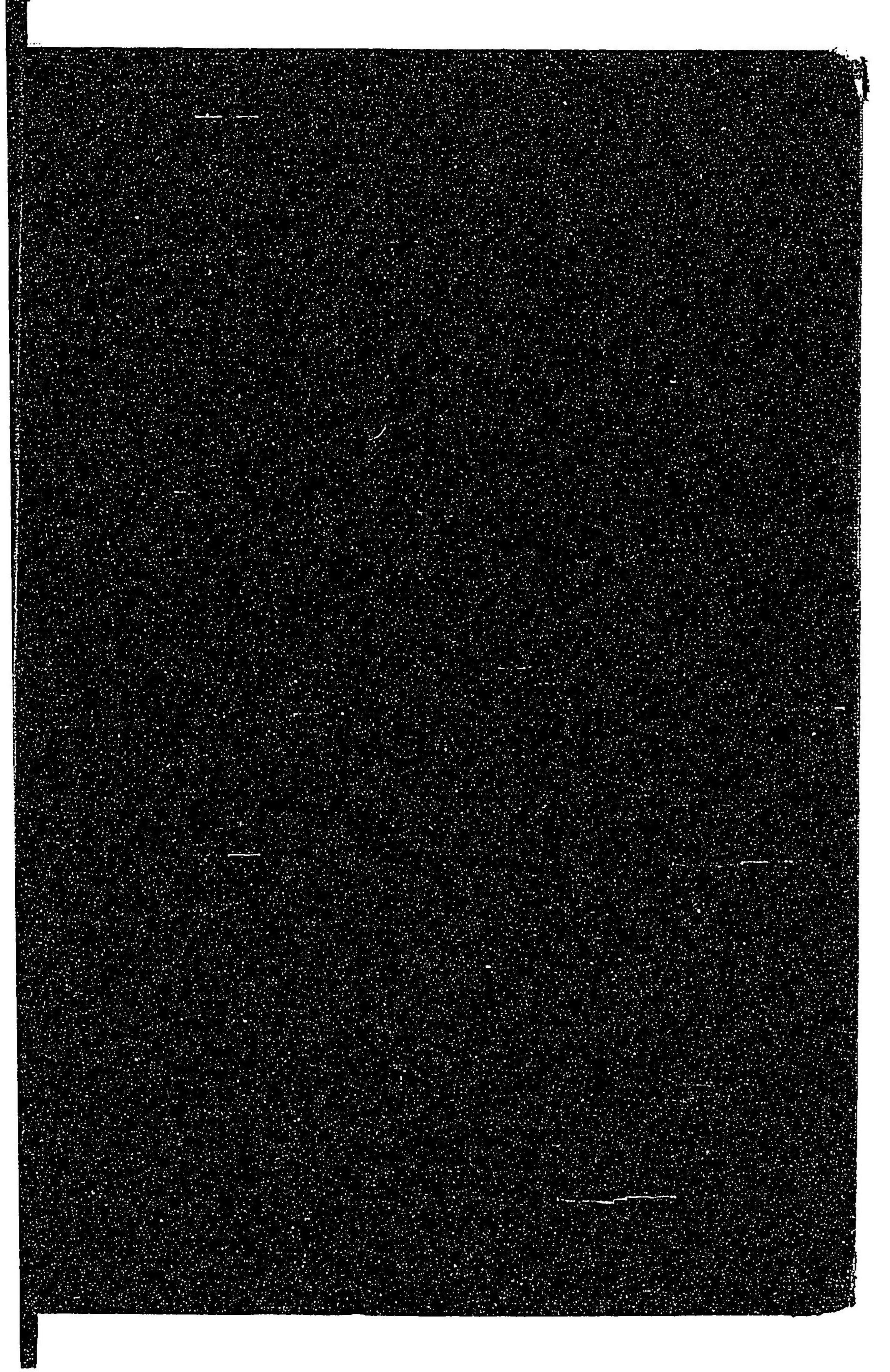
神略説卷之四大尾

531



23  
211









020780-000-4

23-211

神学略説

襄・維・納屈士/述

M17

ABI-0606

